



天国の妻への思いをつづった手紙で 一筆啓上賞大賞を受賞

西田 晏皓さん (71歳・持田)

「一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥 やせ」。これは徳川家康の忠臣、本多重次が陣中から妻に宛てた手紙で、現在は丸岡城に碑が残されています。この日本最古の天守閣を持つ福井県坂井市では、手紙文化を浸透させるために平成5年から日本一短い手紙のコンクール「一筆啓上賞」を開催しており、昨年のコンクールでは、西田晏皓さんの作品が大賞に輝きました。



このコンクールは、テーマに沿った手紙を40字以内で書くことがルール。昨年は「花」をテーマに、国内外から3万3千236通もの応募がありました。西田さんの作品「おーい、お花を新しくしたぞ。活け方に文句あるなら出てこいや」は、12年前にこの世を去った妻・美代さんに宛てたものでした。「頭の中にとっさにフレーズが浮かんできました。仏壇の花を変えるたびに、「私の目の前に化けて出てきてこな

いかな。そうしたら話をたくさんしたいな」と思っていたのです。ただ素直な気持ちを書いただけです」と恐縮しながら、29字の中に込めた思いを明かします。

このコンクールに応募したのは、ささいなことがきっかけでした。昨年の8月ごろに郵便局に行った際、たまたま一筆啓上賞のパネルレットを手にしたので。どちらかというと手紙や文章などを書くことが苦手でしたが、「とりあえず出してみようかな」と何気なく妻への思いをつづった手紙を投稿したところ、驚きの結果が。5カ月後の今年1月、新聞記者から大賞受賞の知らせを聞いたのでした。「最初、記者の方が何の話をしているのかわからなかったです。投稿したことすら忘れていましたから」。西田さんは苦笑いを浮かべながら、そのときの様子を振り返ります。しかし、思いのほか反響は大きく、新聞に大賞受賞の記事が掲載されると、昔の仕事仲間などから祝福の言葉が数多く寄せられたそうです。「初めての経験だから、やっぱりうれしかったですよ。天国にいる妻もおめでとって言ってくれているんじゃないかな」と顔をほころべます。

大賞受賞を機に、既に今年のテーマ「うた」についての作品も投稿した西田さん。「きつと、箸にも棒にも掛からないと思っけどね」と遠慮がちなおコメントをしながらも、このコンクールを楽しんでいる様子でした。(関連21ページ)

私の作品

◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までに、はがき・封書で
広報広聴課へ応募ください。

- | | | | |
|----------------|------------|------------------|-----------|
| 俳句 | 富士見町 鈴木スイ子 | 一茎に太古を秘めて蓮ひらく | 荒木 高澤よね子 |
| 祭り終へ間に気怠き下駄の音 | 長野 野中せき子 | 打ち水や一瞬水の匂ひくる | 長野 野中せき子 |
| ひとり居の自由で淋し夏の月 | 向町 渡月 峯 | 広々と青田育てる利根の水 | 向町 渡月 峯 |
| 金色堂涼しそなる仏たち | 荒木 藤田 栄之 | 田から田へ群れし武州の稲雀 | 荒木 藤田 栄之 |
| 歩かねば焦げつきそな日盛りの | 城南 町田 達男 | 草を引く草の力もさまざまに | 城南 町田 達男 |
| 一瀑の音のこだます山路かな | 富士見町 森 節子 | 流行を追わず今年もよしずかな | 富士見町 森 節子 |
| 沙羅の咲く一期一会の山の宿 | 持田 荻原 義久 | 蝉しぐれ行田の寺の太子堂 | 持田 荻原 義久 |
| 玉音を聞きし遙か終戦日 | 門井町 茂田 鳥山 | 新盆の妻の味付け母好み | 門井町 茂田 鳥山 |
| 早天の慈雨待ちわびし野草かな | 清水町 斉藤 文子 | 梅雨籠りクロスワードで知恵しぼる | 清水町 斉藤 文子 |
| うす紅のくすしき花や古代蓮 | 城西 鈴木 正夫 | 万緑の古墳に園児戯れり | 城西 鈴木 正夫 |
| 針穴の糸すなりと秋立てり | (三沢 一水 監修) | | |

はじめまして



平成26年11月生まれのお子さんを募集します

○9月1日(火)～30日(水)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318)
※応募要領は市ホームページをご覧ください。
○応募者多数の場合は、10月2日(金)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



★★★ 平成26年9月生まれのおともだち ★★★



鈴木 湊太ちゃん(城西)
平成26年9月8日生まれ
父・亮太さん 母・由香理さん
「毎日この笑顔に癒されています」



吉岡 橙香ちゃん(西新町)
平成26年9月1日生まれ
父・将宏さん 母・祐佳さん
「元気に大きくなっつてね」



吉田 怜生ちゃん(長野)
平成26年9月16日生まれ
父・司さん 母・絵里加さん
「元気がいいー! 大きくなっつてね」



石原 百華ちゃん(持田)
平成26年9月2日生まれ
父・裕太さん 母・亜紀子さん
「お兄ちゃん大好き!」



田中 こなつちゃん(門井町)
平成26年9月3日生まれ
父・慎也さん 母・亜紀子さん
「毎日楽しく過ごして!」



松田 汐織ちゃん(長野)
平成26年9月11日生まれ
父・雄太さん 母・由紀子さん
「元気がいい!」

ぎょうだの会社を クローズアップ!!

ノムラ宝石株式会社(NOMURA JEWELLERY)

磨き抜かれた商品力とサービスでお客さま満足を追求



会社プロフィール

代表取締役 野村 泰豪
【事業内容】 宝石輸入卸
【住所】 持田2221

昭和40年に創業したノムラ宝石株式会社は、北関東最大級のジュエリー専門店です。平成26年7月にリニューアルオープンした店舗には、有名ブランドの時計やオリジナルデザインのアクセサリーなど、常に8千点から1万点の商品がそろっており、来店者を魅了しています。

同社の特徴は、豊富な品数に加え、高い品質の商品をリーズナブルな価格で提供しているところです。代表取締役の野村泰豪さんは「宝石の相場を見極め、大量に仕入れた製品を豊富にストックすることで、価格変動の影響を受けにくくしています。また、系列会社で原料を輸入しているため、いざというときに原料から加工することもできます」と高品質なのに価格を抑えられる仕組みを説明してくれました。また、店頭に並ぶ全ての商品は経験豊富な社員が厳選したものであり、品質は抜群。価格以上の価値を持つ商品を提供していることが常連客の心をつかむとともに、結婚を控えた方など新たな客層の獲得にもつながっています。

店頭での販売の他に、同社ではセミナーやオーダーメイドオリジナルデザインのジュエリーを作ることができるサービスも展開中。野村さんは「お客さまの理想を形にするオーダーサービスは、好みや要望を聞き入れながら商品制作していきます。お客さまとの厚い信頼関係があるからこそ、理想を形にすることができると、と自信に満ちた表情で語ります。また、修理やリフォームも行っており、ジュエリーを身に着ける方にとって、とても心強い存在となっています。」

「どんなときも品質を守り、お客さまが満足する事業を目指していきたいです。今後は、商品購入後のアフターケアに関するサービスに力を注いでいきたいです」と野村さんは会社運営に対する決意を語ります。45年以上の歴史で培ってきた安心の品ぞろえと信頼を強みに持つ同社。これからも購入者との縁を大切にしながら、地域に密着したジュエリー専門企業として輝き続けます。

※このコーナーで紹介する会社を募集しています。
特色ある業務を行っている会社の情報を広報広聴課広報広聴担当(内線318)までお寄せください。

「市報ぎょうだ」8月号26ページの「私の作品」のコーナーで、町田達男さんのお住まいの地区に誤りがありました。正しくは「城南」です。訂正しておわび申し上げます。